

課内回覧

## 財政通信 NO.15

平成21年11月

**今年もやって来ました予算編成！その前に財政通信です。**

すっかり寒くなりましたね。雪の便りもあちこちから届く季節となりました。みなさん、いかがお過ごしですか？財政家長です。m(\_ \_)m

新型インフルエンザが猛威を振るっていますが、うがい、手洗いの励行が効果的だそうです。みなさん、体調には十分注意してください。わが家には、シベリア寒気団様、ウェルカム(^)って喜んでいるヤツもいますけど…

ところで、今年は4年に一度、市議会の第4回定例会が11月に開会です。そのため、11月中盤は、一般質問の答弁案作成に、平成22年度当初予算要求の締め切りが重なり多忙だったと思います。みなさんお疲れ様でした。

財政家では要求内容のチェックが始まっています。まずは、基本的なことから。その1 要求モレはないか？

の負担金は通知が来てから入力しよう つい忘れる 万円 UP  
特別会計はバッチリ 一般会計の繰出金を忘れる 万円 UP

予算要求は、現時点の情報や予測に基づき、翌年度を「設計」するわけですから、全て完璧にとは行かず、多少の修正も致し方ありません…が、うっかりミス・単純ミスは防げるはず。上の事例はかなり稀ですが、かつてあったことです。今回は大丈夫だったかな？(大丈夫だったようです。)

その2 入力ミスはないか？

恐ろしきは「単位誤り」…以前、歳出3億円が3千万円と入力されていて、良好な集計結果にぬか喜びしたことがありました。\_| |

財務会計システムの呪いか？「完了ボタン忘れ」…きちんと入力、打ち出し、確認OK 完了ボタンを押さずに終了 データ消滅 (T\_T)

紙媒体の要求書は提出されたけどデータが無いので、当然、集計には反映されていない。これが後で発覚…財源不足額急上昇…ああ恐ろしや

査定に先立ち、地道な点検作業がはじまります。入力ミスなどを排除して、査定調整のベースラインを固めるため、1回目の集計を行います。その歳入歳出要求差引額が査定調整の目安の一つとなります。

私在家員だった時代は財務会計システムなんか無くて、全部手計算だったなぁ～  
検算・集計だけで何日もかかったよな。その分は楽になったが、財政状況が比べもの  
にならないほど悪い。査定調整の労力は2倍いやそれ以上かもしれないな。今の家  
員達にも「査定」＝「削る」じゃなくて、積極型査定をさせてやりたいが…つらいところ  
です。

### 話題の事業仕分けは…

政府では「行政刷新会議」(議長:鳩山由紀夫首相)の下で、来年度予算の概算要  
求のムダを洗い出す「事業仕分け」が始まり、今月27日までの日程で447事業が評  
価されるとのことです。「事業仕分け」が地方財政に及ぼす影響はまだまだ未知数で  
すが、私が気になる事業を挙げると…

- ・ 地方交付税交付金(おいおい、また削減じゃないだろうな。マニフェストでは地  
方に配慮するってあるのに…、総務省頑張れ。)
- ・ 保育所運営費負担金(公立分は三位一体で廃止されたのに…、なに、保護者  
の負担を含めた見直しだって?市町村が保育料を値上げして、その分国庫負  
担下げるの??)
- ・ 下水道事業(地方の判断で実施できるように移管って、財源も移管してくれるの  
か?)

その他いろいろありますが、「仕分け」＝「予算反映」ではないにしろ、行政刷新会議  
の判断は尊重されるでしょうから、市町村にも大きな影響があるのは間違いないと思  
います。

マニフェストの重要項目の「子ども手当」についても、制度の詳細や地方負担の問  
題については未だ示されず、「環境税」についてもどうなるのか?果たして地方分は  
あるのか?無ければ道路特定財源暫定税率の地方分の補てんはどうなるのか?私  
の頭の中の?マークは日々増えていきます。

皆さんも注意深く審議の行方を見守って下さい。

### 財政家長のひとりごと

今年も新年度予算編成の時期となりました。今回は国の大幅な制度改革が見込ま  
れることに加え、我がまちでも4年に一度の特殊事情が…

我が家では連日こんな会話が交わされています。

係長「家長、国庫負担金ですけど、事業仕分けでは廃止ですね。地方に財源  
を移すそうですけど。」

家長「地方交付税措置じゃないだろうな?それだと実質は増えないからな。」

家員「それがまだなにも。」

補佐「来年どころか、今年の経済危機対策臨時交付金の情報もストップですよ。」

家長「まいったなあ、時間切れアウトになっちゃうよ。」

係長「マニフェストの××事業ですけど、もし来年からだとな例も整備しないと実施できないですね。」

家長「そうだ。あれは重点事業だから、国もやると思うけど時期の問題だな。」

係長「額が大きいので、急に決まると厳しいですね。」

家長「所管家長にもう一度、情報収集をお願いしてくるよ。」

補佐「昨日、県に聞いたんですけど、やっぱり報道以上は分からないそうです。」

家長「この時期だ。国も慎重なんだろうな。」

係長「ところで、査定調整の日程はこの案でいいですか？」

家長「ヒアリングまではいいだろう。12月中旬からの日程は、あとで指示するから、ちょっと待ってくれ。」

こんなやりとりが続いています。来年のことは誰にも解りませんから、全て想定、予測、試算の世界。おっと、借金(市債)の返済は決まってるか。(T\_T)

予算って公共サービスの「設計書」ですから、これが決まらなると各所管で実施ベースの予定が立てられないなど大きな影響があります。また、近年、我が市でも事務の電算化が進みました。大きな制度改正があると「システム修正」に高額のコストが発生します。これも見込まなければなりません。

「この事業が終わるまで」「この償還(返済)が終わるまで」・・・と皆さんに頑張ってもらっている、あるいは我慢してもらっていますが、それもそろそろ限界に近いのでは？新たな手法はないかと毎日考えています。考えると気が重くなりますが、これも私の職務(T\_T)頑張ります。皆さんも良い知恵を(または体力を)振り絞って頑張ってください。

たった今、予算要求額の第1回集計が出ました。財源不足額は約17億円(注)。

でもこれは現行制度で見込んだもの・・・これに国の制度改正の影響額が加わります。厳しい査定とともに、タイトなスケジュールのお願いも多くなると思いますが、よろしくお願いします。<(\_ \_)>

それでは、次回また(^o^)/~

(注)財源不足額の約17億円は、各課からの要求額を積み上げた結果であり、精査前の数値となっています。なお、精査後の財源不足額は18億7,400万円です。